

1月3回（1月17日～1月23日）商品検査実績

●微生物検査 222 検体

検査の結果特に問題はありませんでした。

●理化学検査 90 検体

食品添加物検査	54 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。	
残留農薬検査	今週は実施しておりません。	
簡易農薬検査	6 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。	
P C R 検査	畜種判別検査	今週は実施しておりません。
	GMO検査	今週は実施しておりません。
	米のDNA異種米判定	今週は実施しておりません。
	コシヒカリ品種判定	今週は実施しておりません。
米鮮度判定	7 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。	
卵鮮度判定	今週は実施しておりません。	
アレルゲン検査	6 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。	
ヒスタミン検査	今週は実施しておりません。	
アフラトキシン(カビ毒)	今週は実施しておりません。	
クドア（養殖ヒラメ寄生虫）	今週は実施しておりません。	
放射性物質検査（スペクトロメータ※①）	17 体（米 7 検体、野菜 3 検体、果物 6 検体、冷蔵日配 1 検体）実施しました。全て検出限界値（約 20Bq/kg）以下となりました。	
放射性物質検査（サーベイメータ※②）	サーベイメータが定期点検中のため今週は実施しておりません。	

- ・ヒスタミン検査＝ヒスタミンによる食中毒は、アレルギー様食中毒の一つであり、鮮度の低下したマグロやカツオ、サバなどの赤身魚やその加工品が原因となることが多いため、検査でヒスタミンの濃度を測定します。
- ・アフラトキシン＝アスペルギルス属の一部のカビが産生するカビ毒で肝臓がんの原因の一つと考えられています。アフラトキシンが作られる最適条件は、温度 30℃前後、湿度 95%以上であるため、高温多湿の熱帯地方等が最も適しています。輸入食品の安全性に関わるため、日本では、輸入時に行う抜き取りのカビ毒検査やカビそのものが生育していないか外見上の検査を実施しています。なお、日本国内で、食品にアフラトキシン汚染が起きる可能性は低いものと考えられています。

※①NaI シンチレーションスペクトロメータ（^{遮蔽体付検査機器}で核種を特定できるもの：ヨウ素 131、セシウム 134、セシウム 137 を測定）

※②NaI シンチレーションサーベイメータ（^{遮蔽体無し}の持ち運びできる機器：ガンマ線総量を測定）



組合員さん VOICE

組合員さんの

想いにこたえて

みなさんから寄せられた声を商品・運用にいかす取り組みをしています。

チョコレート効果カカオ95% 60gの包装には「非常に苦いチョコレートです」と書いていますが、案内書には書かれていなかったため、気付かずに購入してしまいました。今後は案内書にも書いてほしいです。

改善しました

案内書の表示についてのお声をいただきありがとうございました。ご指摘いただきました内容を検討した結果、本商品の特徴である

“非常に苦い”という表現は、ご注文いただく際の重要な情報であることから、2月3回の案内から「カカオ95%の非常に苦い高ポリフェノールチョコ」と表示いたします。

今後ともご意見をお寄せくださいませ。



今月のお知らせ 安心だより



ノロウイルスへの注意②

前回はノロウイルスに感染した際の症状や、ノロウイルス食中毒を防止するための加熱条件（85℃～90℃で90秒以上）や手洗い、次亜塩素酸ナトリウム溶液（200ppm）による対応をお知らせいたしました。

今回は、次亜塩素酸ナトリウム溶液（200ppm）の調整方法をお知らせします。

●次亜塩素酸ナトリウム溶液（200ppm）は、次亜塩素酸ナトリウムを水で薄めて作りますが、家庭用の次亜塩素酸ナトリウムを含む塩素系漂白剤でも代用できます。

		200ppmの濃度の塩素消毒液	
製品の濃度	液の量	水の量	
12%	5ml	3L	
6%	10ml	3L	
1%	60ml	3L	

【ご注意】

- 塩素を含む製品の濃度によって効果が変わりますので、製品の濃度を正確に正しくはかりましょう。また使用期限が記載されているものは使用期限のものを使用しましょう。
- 次亜塩素酸ナトリウムは金属を腐食させる性質がありますので、消毒後は薬剤を十分に拭き取りましょう。
- 消毒作業中はビニール手袋を使用し、十分に換気しましょう。



商品検査レポート 12月に行った商品検査の結果をご案内します。

毎月の検査結果はHPにも記載しています。▶<http://www.naracoop.or.jp/goods/letter/kensadayori.html>

微生物検査	検査数 905	特に問題となる商品はありませんでした。								
理化学検査	検査数 479	主な検査項目	食品添加物 102	簡易農薬 50	畜種判定 6	残留農薬 (外食検査機関へ依頼) 8	精米品種判定 (外食検査機関へ依頼) 4	カビ毒 4	検査の結果、いずれも問題ありませんでした。	
放射性物質検査 (NaIシンチレーションスペクトロメータ※①)	検査数 61	米	野菜 13	果物 11	牛乳 10	鶏卵 10	水産 1	冷蔵日配 2	飲料 1	検査の結果、全て検出限界値(20Bq/kg)以下でした。
放射性物質検査 (NaIシンチレーションサーベイメータ※②)	検査数 86	野菜	果物	きのこ	検査の結果、全てバックグラウンドとの差異が※③3kcps(キロ・カウント・パー・セカンド)以内となりました。					

※①NaI(エヌイーアイ)シンチレーションスペクトロメータ(薄層体(しゃへいたい)付検出器で極性を特定できるもの:ヨウ素131,セシウム134,セシウム137を測定)

※②NaIシンチレーションサーベイメータ

(薄層体無し)の持ち運びできる機器:ガンマ線量を測定)

※③kcps(キロ・カウント・パー・セカンド):1秒間に対象となるものから何回か

放射性物質が放出されているか測定するものです。奈良県行政と同様にバックグラウンド(放射線測定の際の測定対象以外からの放射線や宇宙線や天然の放射性物質に起因する)との差異を3以内としました。NaIシンチレーションサーベイメータではガンマ線量を測定し、より多くの検体を測定し、検出が疑われる場合は、NaIシンチレーションスペクトロメータで確認検査を行うこととしています。

